

令和4年度 小中連携教育研究部会 活動記録

1 令和4年度具体的実践

- 小中学校相互の授業研究を通して、子ども達の実態の相互理解に努める。
- 算数と数学の内容の系統性を把握し、指導の継続性を求めて、指導の改善を図ることにより、小中学校9年間を見通した指導の相互理解に努める。

<具体的な研究活動>

- 各中学校区ごとに、算数・数学の授業研究を行い、情報共有を図る。
- 学年にこだわらず、授業内容(単元)の系統性、継続性を重視して授業研究をする。

2 各中学校区の活動報告

(1) 赤穂中学校区

- 令和4年6月13日(月)

連携のテーマ「分数でのつまずき」

*中学校での学習以前に既につまずいているところの授業について研究する。

単元：6年算数「分数÷分数」

- 令和4年11月7日(月)

連携のテーマ「小学校で押さえておきたいポイント」

*小学校でやったことが中学校につながる内容について研究する。

単元：1年数学「反比例のグラフ」

(2) 赤穂西中学校区

- 令和4年12月13日(火)

単元：1年数学「図形の性質と合同」

- 令和5年1月30日(月)

単元：6年算数「比例と反比例」

- 令和5年2月8日(水)

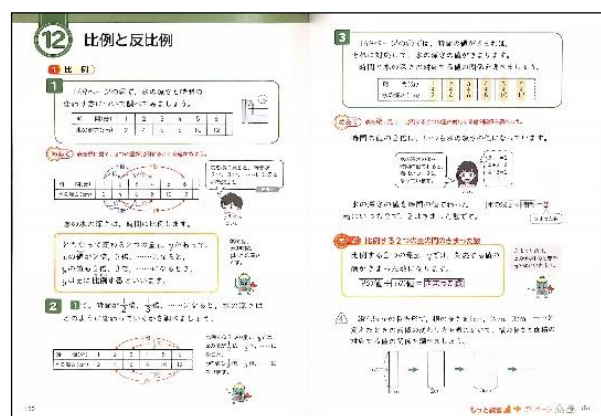
単元：1年数学「1次関数」

(3) 赤穂東中学校区

- 令和4年10月21日(金)

単元：1年数学

「1次方程式(比例式)」



↑6年生「比例と反比例」

(4) 坂越中学校区

- 令和5年1月18日(水)・19日(木)

単元：数学的活動



(5) 有年中学校区

○令和4年6月28日(火)

単元：6年算数「資料の調べ方」



○令和5年2月28日(火)

単元：1年数学 問題演習(総合問題)



3 成果と課題

【成果】

- 小中の授業を見合うことで、板書や掲示物の工夫、多様な学習形態の取り入れなどを考えることができた。
- 中学校入学前の児童の様子をみることで、児童(生徒)理解にもつながる。
- 中学校進学を見据え、6年生で重点的に指導すべき点を知ることができた。

【課題】

- 小学校のうちに、自分からきちんと家庭学習をする習慣を付け、中学校につなぐことが必要である。
- 中学校では既習学習につまずくことも多く、小学校での積み残しをどう補っていくかが課題である。
- 小中高まで意識した授業・単元づくりが必要。小中どちらにも小中の教科書があればよい。
- すべての小学校の教員が小中連携教育部会に入ることが望ましい。(→R5見直し)